

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Relationship between delivery with anesthesia and postpartum depression:
The Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

無痛分娩と産後うつとの関連

ユニットセンター(UC)等名: 愛知 UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pregnancy and Childbirth

年: 2021

DOI: 10.1186/s12884-021-03996-y

筆頭著者名: 鈴木 伸宏

所属 UC 名: 愛知 UC

目的:

産後うつは、通常 1 年以内に産後の女性が経験することの多い精神疾患の一つである。本研究では、無痛分娩による出産と産後うつとの関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

本研究では、エコチル調査に参加した妊婦のうち、多胎妊娠、流産・死産、帝王切開、これらのデータがない方を除いた 80,419 人のデータを解析対象とし、無痛分娩の有無と産後 1 ヶ月、6 ヶ月、1 年時点の産後うつとの関連について調整オッズ比を算出した。産後うつの指標として、産後 1 ヶ月及び産後 6 ヶ月は EPDS スコアを、産後 1 年は K6 スコアを使用した。

結果:

産後 6 ヶ月の EPDS スコアでは、「無痛分娩あり」は「無痛分娩なし」と比較して産後うつとの関連がみとめられたが、産後 1 年の K6 スコアでは産後うつとの関連はみとめられなかった。「無痛分娩あり」のうち、出産前の K6 スコア(高値ほどうつの可能性が高い)が高値を示した妊婦の割合は 5.1%であり、「無痛分娩なし」の 3.5%よりも高かった。

考察(研究の限界を含める):

無痛分娩と産後うつとの有意な関連が示されたが、先行研究における報告と必ずしも一致しているわけではなく、産後うつに対する分娩時の麻酔の使用が与える影響について、合意された見解は得られていない。本研究では、産後 1 ヶ月、6 ヶ月、1 年時点における評価を行ったが、このような特定の期間における評価だけでなく、今後長期的・縦断的な調査が必要とされる。また、産後うつのスクリーニングツールとして EPDS と K6 という異なるツールを用いていることも結果に影響を与えている可能性がある。さらに、他国と比較して日本では無痛分娩の割合が非常に少ないことや、痛みを耐えることを美德とする日本の背景なども考慮する必要がある。

結論:

産後 6 ヶ月の時点で、「無痛分娩あり」は「無痛分娩なし」と比較して産後うつとの関連がみとめられたが、産後 1 年の時点では関連はみとめられなかった。日本では無痛分娩は他国に比べ普及していないという背景があり、また、産後うつになりやすい素因を持った妊婦が無痛分娩による出産を選択している可能性も考えられる。